



行政書士 MAP

福岡県行政書士会

広報部発行

第 14 回：代書屋を極めたい行政書士

行政書士は扱う業務が幅広い仕事。そのため一人ひとりの得意分野や仕事の流儀、人生の背景も実に多様です。「行政書士 MAP」では、福岡県行政書士会の会員の中から、話題の行政書士やさまざまな活動を行う行政書士をご紹介します。

第 14 回は、飯塚市を拠点に、補助金の交付申請手続きを得意とする『わたなべ行政書士事務所 渡邊 益紀会員』を訪ねました。

広報部(以下「広」): 渡邊会員、本日は取材に応じていただきありがとうございます。まずは、行政書士になられたきっかけ、理由などを教えていただけますか。

渡邊会員(以下、「渡」): そうですね。どこから話しましょう……大学を卒業後は、福岡市で郵便局の配達を請け負う会社で働いていました。その後、農業に誘ってもらって、宮若市できゅうりやたけのこを作っていたんです。農業は楽しかったですよ。性に合っていたのだと思います。ですが、妻との間に子どもができたことで、このままの収入で子どもを育てられるかな、と不安になって。仕事を見直そうと思ったんです。初めて就職活動をし、養豚場で働くことになりました。

事故に遭ったのは、そこ(養豚場)で働き始めて3カ月くらい経った時でした。養豚場の中に豚の糞を集める溝があり、処分する容器に送り出すためのスクリーンが回っているんです。そこに落ちて、スクリーンに右手と右足を巻き込まれてしまいました。29 歳の時でした。妻のお腹には子供がいて、結婚式の準備を進めている時期でした。1 年近く入院し、結婚式も 1 年延期し、その間に子どもも生まれて、バタバタでした。妻が出産した病院は、僕が入院している病院だったので、二人同時に入院をしたりもして。妻は、とにかく、「生きていたからよかった」と思ったそうです。

広: 気丈な奥様ですね。

渡: 妻は、そういうタイプなんです(笑)。

行政書士になったのは、そういうことで、怪我をした体でできる仕事と思ったのがきっかけでした。私の実家が車の整備工場をしているので、行政書士は身近な士業でしたし、両親からも勧められて試験を受けることにしました。



入院が長かったので、病院の人からはこれからどうするのか、よく聞かれたんです。行政書士のことは言っていなかったのですが、心配してくださったんでしょね、「パラリンピック目指したら？」なんて言われるようになって。「行政書士を目指します」と伝えました。口に出した方が叶う、と聞いたのでそこからは周りにも伝えて、結婚式でも宣言しました。自分を追い込もうと思って(笑)。事故が1月で、11月に退院し、その1年後に試験を受けて合格しました。左手で文字を書かなければいけないので、試験の勉強は文字の練習にもなったのは、一石二鳥でした。

広: 有言実行ですね。登録当初は、別の場所で開業されていたんですか？

渡: いえ、最初からここで開業しました。二人目の子どもが妻のお腹にいるときにこの家建て、事務所として登録しました。開業と引っ越しと子どもが生まれるのが同時進行という感じで。

広: そこから活躍の場を広げられたのですね。初仕事は覚えていらっしゃるんですか？

渡: 厳密には、初めてやったのは実家からの仕事で、車の名義変更の手続きでした。ですが、印象に残っているのは、最初に受けた補助金の申請ですね。

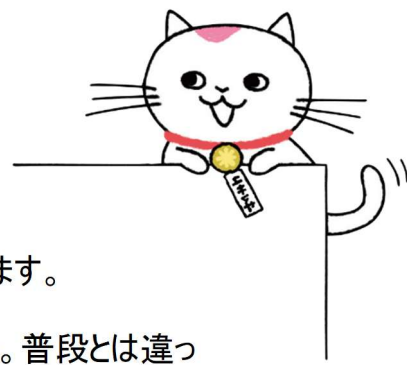
出来すぎて聞こえるかもしれませんが、学生時代から、34歳が最強というのが持論で。34歳になれば、流れに身を任せればなんでもうまくいくと思っていたんです。そうして、自分が34歳の誕生日を迎えて、2〜3日後、知り合いの整骨院の方から、補助金を申請したいけれど、手伝ってもらえないか、と声をかけてもらって。それをきっかけに補助金を専門にするようになりました。

広: 今は、商工会の相談会などにも行かれているそうですね。

渡: 補助金の申請手続きをするうちに、商工会の方と顔見知りになり、相談窓口での仕事をしないかと声をかけてもらったんです。商工会の方は転勤があるので、顔見知りの方が異動されるとそっちでも呼んでもらったりもしています。商工会の窓口に、週に何度か行政書士が行って、ご相談をお受けするんです。コロナ禍の時には、持続化給付金(※1)や協力金(※2)などの申請が増え、商工会の窓口がパンクしかねない事態になりました。その時に、申請支援窓口にて協力させていただきました。それがきっかけで。

あの時は、寝る時間を削って書類を作ったり、飲食店の方の営業時間に合わせて夜中に打ち合わせをしたり。体力的には





とても大変でしたが、とても楽しくもありました。成長させてもらったと思います。

士業は、コロナ禍のような有事に活躍できる存在ではないでしょうか。普段とは違って、混乱してみんなが困っている時にこそ。

ただ、その時に、冷静でいることが大切だとも痛感しました。事業者の方が明日どうしよう、と不安になっている時に、しっかりお話を聞いてストレスを発散してもらうことは大事です。ですがその時に感情移入しすぎてはだめで、行政書士はあくまで落ち着いて手続きを進めなければならないと思っています。

広: 渡邊会員が、補助金のお仕事でやりがいを感じるのはどんな時ですか？

渡: やっぱり、事業者さんと一緒に問題解決をしている実感でしょうか。

私自身が一緒に経営しているわけではないので、いわば、第三者です。だからこそ、事業者さんも私にはいろいろなことを打ち明けられるようで、本当にさまざまなお話を聞かせてくださいます。特に、相談業務の時は、事業者の方が話し切って、すっきりとした顔で帰ってくださるのを見るとよかったなと思います。

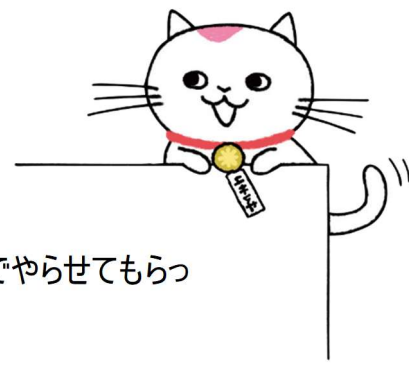
広: 補助金業務をする行政書士には、コンサルタント的な仕事をする方も多そうですね。

渡: 私自身は、コンサルタントではなくあくまで補助金のための書類作成の専門家だと思っています。私は、行政書士事務所は経営しているものの、他に事業の経験が豊富なわけではありません。ですから、経営についてコンサル、アドバイスをするのは自分には向いていないと感じてしまって。あくまでも、事業者さんの言いたいことを、きちんと聞き取り、それを正確に、的確に書類にまとめるのが私の仕事です。

仕事との向き合い方については、迷った時期も正直ありました。商工会で仕事をしていると、中小企業診断士の方が、経営について踏み込んだアドバイスをされるのも目の当たりにします。自分の仕事の進め方はこれでいいのか、という迷いが出る時もありました。そんな時に、「代書屋」という落語に触れる機会がありました。桂枝雀さんでしたが、



それを聞いたときに「これだ！」と思ったんです。この落語では、代書屋が客の履歴書をまとめるのですが、話があっちこっち飛んで作成に非常に苦労します。けれど、こうやって自分で書けない書類を代わりに作るのが、まさに行政書士の役割だと思ったんです。そこからは吹っ切れました。今は、建設業などのご相談もいただきますが、お断



りしたり知り合いの行政書士をご紹介したりして、ほとんど補助金一本でやらせてもらっています。

補助金の申請では、審査員に伝わるように書くことが大切です。事業者さんは、それぞれ思いが大きく、ご自身の事業について深く考えておられます。ですが、その思いをそのまま書いても伝わりません。誰が読んでも伝わるように仕上げるのが、私の役目で、やりがいでもあります。

私自身は、補助金が採択されなかった時は報酬をいただかないようにしているんです。ですから、無事に補助金の下りかどうかは真剣勝負。そのヒリヒリする感じが、たまたま好きなんです(笑)。私も一緒にリスクを背負うというか。

広: 完全成功報酬なのですね。ちなみに、採択率はどのくらいですか？

渡: 正確には分かりませんが、8～9割は行っていると思いますよ。

広: 少し聞きづらいですが、担当された事業者さんが倒産されたことなどはありますか？

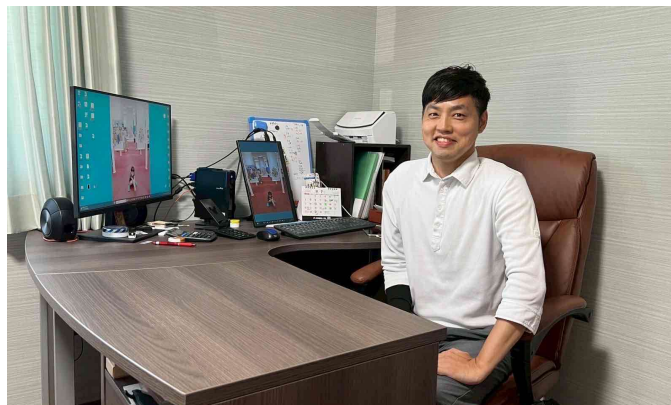
渡: ほとんどありません。ご自身で考えて、形にされた事業計画書をきちんと実施されている方ばかりなのだと思います。

行政書士であっても、真面目に仕事をしていれば経営は大丈夫なのではないかと思います。私自身は、ホームページも持っていませんが、お客さんが周りの方に宣伝してくれて、次につながっていきます。私の周りに、営業してくださる方、営業マンがたくさんいるイメージでしょうか。

広: それは、特に新人の会員にとっては心強いお話ですね。行政書士MAPは会員以外の方にも見ていただくページですが、事業者さんなどに向けて、お伝えしたいことはありますか？

渡: 難しいですね(笑)。そうですね、行政書士に補助金申請を依頼、となると緊張してお越しくださる方も多いのですが、私の身なりがカチッとしていないのもあって、「拍子抜けした」と言われることが多いんです。士業だからと言って構えず、ぜひ、気軽にお話を聞かせていただきたいです。

広: 今日は、ありがとうございました。



※1 コロナウイルス感染症の流行時に、売り上げが大きく減少した中小企業・個人事業主が申請することができた給付金。

※2 各都道府県や市町村が、飲食店などに休業や営業時間の短縮を要請し、要請に応じた事業者を支給した協力金。自治体により、独自の条件があった。



～行政書士プロフィール～

渡邊 益紀(わたなべ ますのり)

登録年月日:平成 29 年 10 月 2 日

事務所所在地:飯塚市弁分 309 番地

この記事は令和 7 年 9 月 1 日の情報です